

## 大将、参謀、兵隊

大森 海太

昔、会社に入ったばかりのころ、年上の人事の人から「人間の器には大将、参謀、兵隊という三つのタイプがある。君たちは自分のことをどれだと思っかね？」と訊ねられた。西も東もわからぬ新入社員にこんなことをきくとは理解に苦しむが、なぜかそのことだけ記憶に残っている。

戦国時代の武将は十人十色で、織田信長、徳川家康はじめ生来の大将が大勢割拠するなかで、豊臣秀吉は兵隊からスタートして、参謀から大将までのし上がった。いっぽうすぐれた参謀であった明智光秀は、大将になろうとしてしくじった（器でなかった）。

明治の人間で言えば、日露戦争の前線で「児玉どん、朝から大砲の音がうるさいが、どこかで戦でござるか？」とのたもつた大山巖元帥とか、秋山兄弟の兄好古は大将の器で、日本海海戦で東郷司令長官をサポートした弟の真之は参謀タイプということになっている。

もっともこれらの話は司馬遼太郎や歴史小説家たちの脚色もあるだろうから、話半分に見たほうがいいかもしれない。

最近の総理大臣の中で、去年までのAさんはとかくの毀誉褒貶はあるものの、長期政権を維持し、国際的にもそれなりのプレゼンスを発揮した大将型と言えるだろう。いっぽう今のSさんは長らく名参謀（官房長官）としてAさんを支えてきた功績は大きいとしても、大将になってからはコロナで苦戦しており、今後の動向が注目される。

ボーヨーとして些事にこだわらず、清濁あわせ呑むのが大将の器。でもこのせち辛い世の中では、そんなことをしているとマスコミや野党の餌食になるに違いない。

それはともかく、他人の性格をあげつらって、ヤレ大将だ参謀だ、はたまた兵隊だなどと論評してみるのは何やら愉しいことである。

ところがそれじゃ自分自身はどうなのかと問われると、何と答えていいかわからない。ただ、我が家にあつてはカミサンが大将兼参謀の地位にあることは揺るぎなき事実であつて、私は朝から晩までただの一兵卒に過ぎない。